

放課後等デイサービス 事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6 年 3 月 31 日

事業所名:ハーモニーケア

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		各部屋に分かれて活動出来るように、環境調整しています。	
	2 職員の配置数は適切であるか	○		適切に配置している。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○		車いすでも移動できる様、バリアフリーになっている。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		会議において、考えている。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		アンケート結果の他に、モニタリングや送迎時の保護者からの要望を把握しスタッフ会議において、業務改善に繋げられるように、考えている。	毎年のことであるという思いからか、保護者の意見が少ないことが課題である。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページにより公開している。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		他部門は実施したことがあるが、デイは未実施である。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		事業所内研修は定期的におこなっている。受講できていない職員には伝達研修により、職員全員に学ぶ機会を与えている。まとめ・振り返りを職員全員が書くことにより自己啓発をしている。	コロナが5類になったこともあるので、今後外部研修に、職員が参加し皆に伝達研修を行う事によって周知できるように考えている。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者からの面談から得た情報を元に、当社のチェックシート・アセスメントシート・支援計画作成会議など流れにそってスタッフ間で考えて作成している。	
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		事業所独自のツールにより評価し、状況を把握している。そこから、支援計画に反映させている。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		職員の専門性・得意分野を考えながら意見を出し合っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		本人にとって必要なスキル・保護者のニーズを考えプログラムを考えている。五領域を視野に入れて立案している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		その時々に応じての支援をしている。時間的にゆったりできる時は、個々の課題に力を入れて支援している。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		本人の特性を踏まえて個別に行うプログラムと集団で行うプログラムを考えている。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		出勤するスタッフの時間の違いもあるが、その都度申し送りをしている。申し送りファイルへの記載もしている。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		勤務体制が違う職員や送迎へ出ている職員もいるため全員が厳しい場合もあるが、申し送り・気づいた点を出し合っている。	

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		公の記録(業務日誌・保護者に渡す記録)職員自身の記録帳により、日々のことを把握し、次につながるよう努力している。問題が起こった時や・成長がみられた時などはしっかりと記録に残し、会議などにおいて皆で考えている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○		必ず定期的にモニタリングを行い、保護者と共に考え判断している。	
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	○		五領域を踏まえた上、プログラムを計画し実施している。	
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		基本的には、J児発管が参画している。ただその時に応じて、家庭環境等も周知したものが参画する場合もある。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○		お迎え時に、担任の先生等と情報共有し進めている。送迎車乗車児童の把握のために、一週間毎に学校へファクスし乗り遅れないように、している。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○		医ケアの子どもを初めてうけいれた。訪看事業所との連携により、医師との連携も行っていった。	令和6年3月に転居されて、現在は医ケアの必要な子どもはいない。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○		保護者の了解を得て、相談員を通しておこなっている。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○		必要な事においては、情報の共有を行っている。	
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		現在は相談支援員さんに助言・相談をお願いしている。今後は、センターとの助言・研修も希望する。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		現在は、事業所独自のイベントに地域の方々を招き交流の機会をもうけています。ただ、保護者アンケートからは、交流を望まない声も多い。	
	27 (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか		○	放課後等デイサービス事業所交流会の情報交換会には参加している。	事業報告書などによって情報を得るように、している。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		保護者に伝えたい事がある場合は、その時すぐに、電話にてお話をすることによって情報の共有をし、共通理解している。	
29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○		現在は行っていない。	
保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時におこなっている。	
	31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○		いつでも話ができる環境を整え、必要ならば様々な機関との連携も行っている。	
	32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		○		保護者会は行ってない。(以前には行っていた。)保護者からは、必要としない意見が多い。
	33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○		その日のうちに解決できるように、苦情の内容をしっかりと把握し、児発管やその場の状況をよくわかる職員が行っている。	

区分	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		ハーモニータイムズや活動報告書として発行し、情報をお伝えしている。	
	35	個人情報に十分注意しているか	○		十分注意している。研修の機会も度々設けている。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		視覚支援・手話・筆談・ペクス・絵カードなどで配慮している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○		収穫祭を企画し地域の方々にも来所いただく機会を設けている。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		職員には、研修で行っている。保護者に対しては、契約時にお伝えしお知らせしている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		半年に1回必ずプログラムに導入し、その時々起こっている災害について考えて行っている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		虐待防止委員会の設置をし、会議・研修を行っている。他の職員にも委員会での討議の内容を伝達している。全体研修の機会も設けている。外部研修においては、伝達研修を行い、職員皆に周知している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		契約時に説明している。身体拘束が必要な場合は、保護者・児童に説明し、同意を得たうえで支援計画に記載していく。出来るだけ早く人権を尊重してはまずすことを目標としています。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		保護者に、書面にて医師の指示書を書いていただき特に児発管が熟知し、職員に会議において伝達している。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		職員全員が閲覧できるように書類にて残している、そして研修にて取り上げて考えている。	